

福岡座禅道場俳句会八月句会結果

天 さがし物見つけられたか赤とんぼ (真光)

地 ゆつくりと舌を吐きたる蜥蜴かな (霊峰)

地 クーラ背に医者は加齢と切って捨て (白堂)

人 ふんばって流れと遊ぶ水馬 (真光)

人 とまる樹に好みあるらし蝉時雨 (宗道)

人 油照り踏切の音高きかな (霊峰)

人 たらちねの少し余した心太 (真光)

人 一休み蝉が聞き入る座禅和讃 (閑雲)

人 入道は宝満の峰に立ち上がり (白堂)

1 冷し酒白磁の皿は四寸五分(霊峰) 1 28 浮雲のなにか親しき彼岸あけ (瑞雲) 2

2 人はみな一人にあらず吾亦紅(宗道) 3 29 ひまわりの背景蒼し伊都の国(日下部) 1

3 白雲の浮き上りくる暑さかな(瑞雲) 3 30 甲子園終わって静か夏の日や(寶州) 1

4 夏休み隣は孫の来たるらし(寶州) 4 31 噴水に服も濡れよと酔いもせず(閑雲)

5 交差点木陰でしのぐ有難さ(閑雲) 1 32 盆踊り炭坑節のなつかしく(淨淵) 2

6 ふんばって流れと遊ぶ水馬(真光) 4 33 ろうそくに灯移す子の目炎立つ(白堂) 2

7 滝しぶき烟りて拝す磨崖仏(淨淵) 1 34 カンナ咲き庭の一隅色めける(宗道)

8 掛袂紗ぱらりとほどく花菖蒲(宗道) 2 35 夕映えの街に浴衣の女の艶(日下部)

9 背中ポン叩きて飛び去る黄金虫(寶州) 2 36 栓抜きも錆びて昼間っからビール(霊峰) 1

10 押し入れに父の遺せし寝莫産かな(淨淵) 2 37 たらちねの少し余した心太(真光) 4

11 逃げ水や墓地分譲の大看板(霊峰) 2 38 一休み蝉が聞き入る座禅和讃(閑雲) 4

12 とまる樹に好みあるらし蝉時雨(宗道) 4 39 志賀島夕陽がゆらり浮かぶ夏(日下部)

13 原爆忌ハトに餌やる子等のかけ(日下部) 1 40 入道は宝満の峰に立ち上がり(白堂) 4

14 子トンボの頭にむれる島休み(瑞雲) 1 41 立ちくらみする程熱波広島忌(日下部) 1

15 芋の露まあるくなつて一休み(真光) 1 42 頭上から蝉か陽射しかじりじりと(閑雲)

16 優曇華や幽かに数個人知れず(寶州) 1 43 クーラ背に医者は加齢と切って捨て(白堂) 5

17 滝の音僧の禅定動かざる(淨淵) 1 44 さがし物見つけられたか赤とんぼ(真光) 7

18 旧友の面頼もしき夏の夜(閑雲) 3 45 空の青澄みて目にしむ秋近し(瑞雲) 1

19 ゆつくりと舌を吐きたる蜥蜴かな(霊峰) 5

20 大天狗どかりと坐る飾山笠(宗道)

21 セミの声ひと休みあり彼岸かな(瑞雲) 2

22 芋の露ひとつぶごとの昭和かな(真光) 1

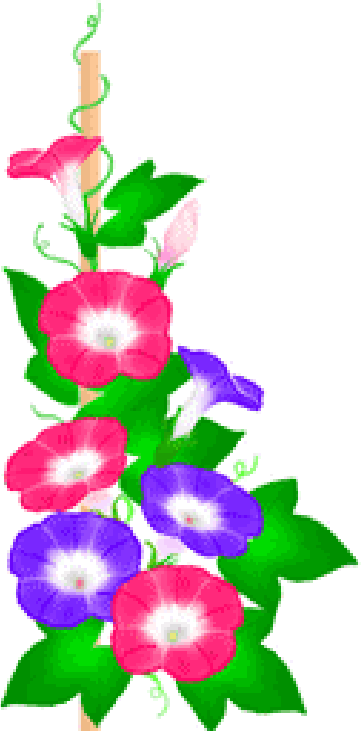
23 手術台言われるままに夏一日(寶州) 2

24 迎え火にツクツク法師の聲しぐれ(白堂) 1

25 訳もなく瀑布の下に佇めり(淨淵) 1

26 茄子に脚刺す夫の背の丸みたり(白堂) 3

27 油照り踏切の音高きかな(霊峰) 4



次回九月句会の投句締切りは**九月十三日(日)**です。俳句会が二十日になりますので、少し早いですがよろしくお願ひします。 霊峰拝